

ビッグ・アイ コミュニケーション情報紙

i-co

あいこ

BiG-i Communication Paper

The title of our information paper "i-co" is pronounced the same as the Japanese word "aiko," which means here an equal relationship where no one wins or loses. The purpose of this free paper is to offer useful information for everyone, with and without disabilities, with the motto of "Sharing and Caring."

2014

April

vol.14

「あいこ」は、勝ちも負けもない対等な関係を表す言葉です。「あいこ」は、この分かち合いの精神で、障がいのある人ない人にかかわらずお役に立つ情報を発信します。

i-feature

障がい者のアート活動に取り組む「やまなみ工房」(滋賀県甲賀市)の創作風景を撮影した写真集『DISTORTION』が、2014年2月に発売されました。

今までにないアプローチで撮影された写真集にこめられた想いとは...?

施設長の山下さんと、知的障がい者による創作物の魅力を発信するプロジェクト

「PR-y(プライ)」を主宰する笠谷さんにお話をうかがいました。

Creative force

イメージを変えるプロモーションの力

山下 完和

Masato Yamashita

やまなみ工房 施設長

高校卒業後、ブー太郎として様々な職種を経た後、1989年やまなみ工房に支援員として勤務。その後1990年に「アトリエころぼくる」を立ち上げ、互いの人間関係や信頼関係を大切に、一人ひとりの思いやペースに沿って、伸びやかに、個性豊かに自分らしく生きる事を目的に様々な活動に取り組む。2008年5月からは施設長に就任し現在に至る。

笠谷 圭見

Yoshiaki Kasatani

PR-y 主宰 / 株式会社リッソ 取締役副社長

クリエイティブディレクターとして、広告・グラフィック・WEB等の制作に携わる傍ら、知的障がい者による創作物の魅力を発信するプロジェクト・PR-yを主宰し、海外のギャラリーや研究機関との橋渡しを手がける。2013年、やまなみ工房とのコラボレーションによるファッションレーベル「NUDE:PR-y」を発表し、国内外から高い評価を得ている。

出発点

お二人にとって、障がい者のアートと関わるきっかけは何だったのでしょうか？

山下 僕は福祉というものに全く無知の状態飛び込んだので、やまなみ工房で働くことになって初めて障がいのある方々と知り合いました。もともとやまなみ工房は下請け作業一辺倒で、一日一本何銭の仕事をお願いすることで、障がいのある方々の就労や自立の支援を図っていたんです。毎日一緒に内職をしながら、そのことに何の違和感もなく過ごしていたのですが、ある日、一人の利用者の方が落ちていた紙を拾って、何やら落書きをしているのを見ました。僕はその落書きには何も興味を持たなかったのですが、書いている時の顔が、今まで見たこともないくらい楽しそうな顔だったんです。内職している時やご飯を食べている時とは全く別人のようで、すごく嬉しそうにいきいきと見えて…。一年以上の付き合いの中で、僕は彼のことをよく知っているつもりだったのに、結局は何も知らなかったということに初めて気付かされたというか…。何をすれば彼は笑うのか？嬉しそうにしてくれるのか？とにかくその顔をもっと見てみたいと思ったことが、いまアートと呼ばれている活動の出発点でした。

1990年から20年以上に及ぶ活動のきっかけは、一人の利用者の方の笑顔だったんですね。

山下 そうですね。勝手に僕らの基準や物差しだけで考えていたんだなってことに気付かされたのです。それぞれの願いや、こんなことしたいという思いはもっとあるはずなのに、僕たちはそれを聞く前に判断してたんだなって…。それだったら、もっと一人ひとりの本当に好きなことをしようということになって、今でもそんな感じなんです。

笠谷さんにとってのきっかけは何だったのでしょうか？

笠谷 遡ると小学生の時に、父に無理やり連れて行かれたねむの木学園の絵画展です。その時は、父がどういつもりで連れて行ったのか分からなかったのですが、僕はそれを“障がいのあるかわいそうな人が頑張って描いた絵”みたいに見ていたんです。それが大人になって、デザインなどの仕事をしているうちにどんどん興味を持つようになって、それは違うなっていうのが分かりました。障がいと関係しているのかは分かりませんが、彼らの色彩感覚や表現力に、ただならぬパワーを感じるようになりました。また、障がいのあるお子さんを持つ親御さんと話す機会もあって、それぞれの問題は違うのですが、概ね皆さん困っているみたいで…。それに対してデザインやブランディングという仕事を通じて何か出来ることがあるんじゃないかと思いついたのが3年前のことなんです。

僕を含めて一般の人たちには、障がい者というと薄暗い中で作業しておられるような、見たこともないのに

そんな暗いイメージが定着しているように思うんです。そのイメージをデザインの力を使って変えられないか？実際にかっこいい絵を描く人たちがいるのだったら、そこに焦点をあててかっこよく見せる方法だっていろいろあるのに、あまり世の中でやってないなっていうのがあって、それで順番に思いつくことから取り組み始めました。

やまなみ工房を知るきっかけは何だったのでしょうか？

笠谷 大阪のアトリエコーナスさんを題材に写真集を作ったりブランディングをしている中で、たまたま山下さんと出会う機会があり、そこで初めて山下さんのプレゼンテーションを見たんです。やまなみ工房に在籍するアーティストさん一人ひとりの紹介だったのですが、いわゆる慈悲を乞うような表現は一切なく、アーティストさんのパーソナルな魅力や作品の面白さをストレートに紹介されていて、その潔さに強く感銘を受けました。やはりプレゼンテーションの仕方によって、人に与える印象は大きく変わるということをあらためて確信し、これはデザインの力で僕が

うな新しい形で発信して下さって、更には嬉しいことにそのことがきっかけで、今まで出会うことのなかった人たちと繋がり合える。僕たちの力だけでは、どうしてもやまなみや福祉の枠の中で完結するしかできなかったのですが、プロモーションをしていただいた結果、状況は大きく変わりました。でも僕ら自身が実際に現場でやっていることっていうのは、正直今も昔も何一つ変わらないんですよ。ただ、今回携わってくださった方々のおかげで、やまなみ工房は発信力や成果物はもちろんですが、僕を含めたスタッフの意識がすごく成長できたと思っています。笠谷さんたちのおかげで想像もしなかった形でかっこよく社会に発信していただいたことで夢も広がりました。アーティストやご家族も自信を持ってました。そして何より一流の皆様の手腕と一流の人間性を間近で学べたことは僕たちの大きな財産です。

ご自身でもギャラリーをライブハウスのようにされていると聞きましたが？

山下 今は看板に書いてあるだけです(笑)。でも、



本当に面白いと思うからこそ、その感動を人に伝えたくになりますよね。面白くなかったらこんなことできません。

やろうとしていることと根本は一緒だと思って、名刺交換をさせていただきました。いつかきっと力になれるという思いから少しずつ近寄って、今に到りますね。

繋がれば広がる世界

ビッグ・アイでは過去にやまなみ工房の作品展を開催したこともあります。当時よりも情報の発信の仕方が洗練されているように感じます。チラシやホームページ等もかっこいいですね。

山下 よく言われるんですよ。「最近やまなみさんかっこよくなったね」って。でもそれは、僕たち自身が自らの力でかっこよくなった訳ではなくて、笠谷さんや笠谷さんを通じていろんな方がいろんな形でかっこよくしてくださるからなんです。様々な分野のプロフェッショナルな人たちが僕たちでは到底思いつかないよ

やまなみにいろんな人が普通に集う場になればと思っています。

福祉施設の中にライブハウスを作るというのは...

笠谷 聞いたことがないですよ。

山下 僕ね、福祉の中にいると少し異端児っぽい言われ方をすることもあるのですが、それはこの職業に対する概念の中で言われているだけの話で、一歩外に出てみればいろんな人がいっぱいいるじゃないですか。そう考えると福祉の世界に対する見方というのは、まだまだ狭いなど逆に思うこともあります。

何かを伝えたい、広く届けたいとなった時に、当事者だけで考える必要はなくて、それをどう世に出していくかという部分で、自分たちにはない考え方や方法、人の力が必要になるというのは、福祉の世界に限らずあることですよね。

笠谷 福祉関係の人だけであれだこれだと考えても、やはり出来ることに限界があると思うんですよ。全く無関係な広告業界の人とか、いろんな人がそれぞれの専門スキルを福祉の世界に持ち込めば、今まで出来なかったような面白いことが実現できると思うんです。僕たちの活動に興味を持ってくれた人が「自分なら何が出来るだろう」って考えるきっかけにしてくれたら嬉しいですね。そのためにも、とにかくこの分野の面白さを宣伝することが自分の一番の



課題だと思っています。

山下 福祉の中から見たら、笠谷さんのような存在は大切な宝なんですよ。その人が入って来てくださることによって、初めていろんな“うねり”がいま現場でも社会でも起きてるんですよ。僕は福祉や障がい者が社会の中で決して特別な存在ではなく、面白くて、かっこよくて、素敵な人間性の持ち主がたくさんいることを知っています。彼らから学ぶことや気付かされることもたくさんあります。福祉施設は閉鎖的で特定の人のための場ではありません。やまなみ工房は利用する人たちだけではなく、家族にとって、社会の様々な人たちにとって魅力ある場所になればと願っています。それに、笠谷さんたちに「なんだやっぱり面白くないなあ～」と思われたくはありません。そのためには何よりここに居る人たちがどう過ごしているかです。僕たちは常に利用者の方の本音と向き合って、彼らがありのままの彼らしく過ごせるよう、やるべきことをやっているかということだと思っんです。作品づくりのためにどんな指導を



©PR-y

敬意が互いに強く感じられました。そのおかげでスタッフの肩の力も抜けて自然体になれましたし、本当にいろんな学びを得ました。施設としてのあり方とか僕らの日常の作り方とか。逆に「こういう付き合い方が大事なんだ」とか、僕ら自身が気付かされたことは多いですね。写真集が出たとか洋服になって評価を受けたとか、そんなところばかりがピックアップされますが、僕たちにとってはそこが一番大きかったかもしれないですね。

笠谷さんから見て、やまなみの日常とはどういうふうに映りましたか？施設の色みたいなものはあるのでしょうか？

きっかけは...

こうしたプロモーション活動の先にあるビジョン、最終的な着地点とはどんなものなのでしょうか？

笠谷 当然ですが「偏見や差別がない社会」になればいいと思っています。ただ、そんな分かりやすい理想を掲げるだけでは何も始まりませんよね。きれいごとではなく、目先の課題をこつこつこなして成果を出すことが重要だと思っています。今回の写真集にしても、福祉の分野でこれまでになかったものを発表しないと意味が無いと思って作りました。不要なフィルターをかけず、純粋にかっこいい「やまなみ工房」を知ってもらうための表現を今後も摸索していこうと思っています。

山下さんはいかがですか？

山下 ビジョンねえ...ないんですよ。工房のスタッフや利用者にとってこの場所が良い場所になればいいなって、そのために何をすべきかということだけであって、自分の為の目的とかビジョンとかっていうのはないんですよ。

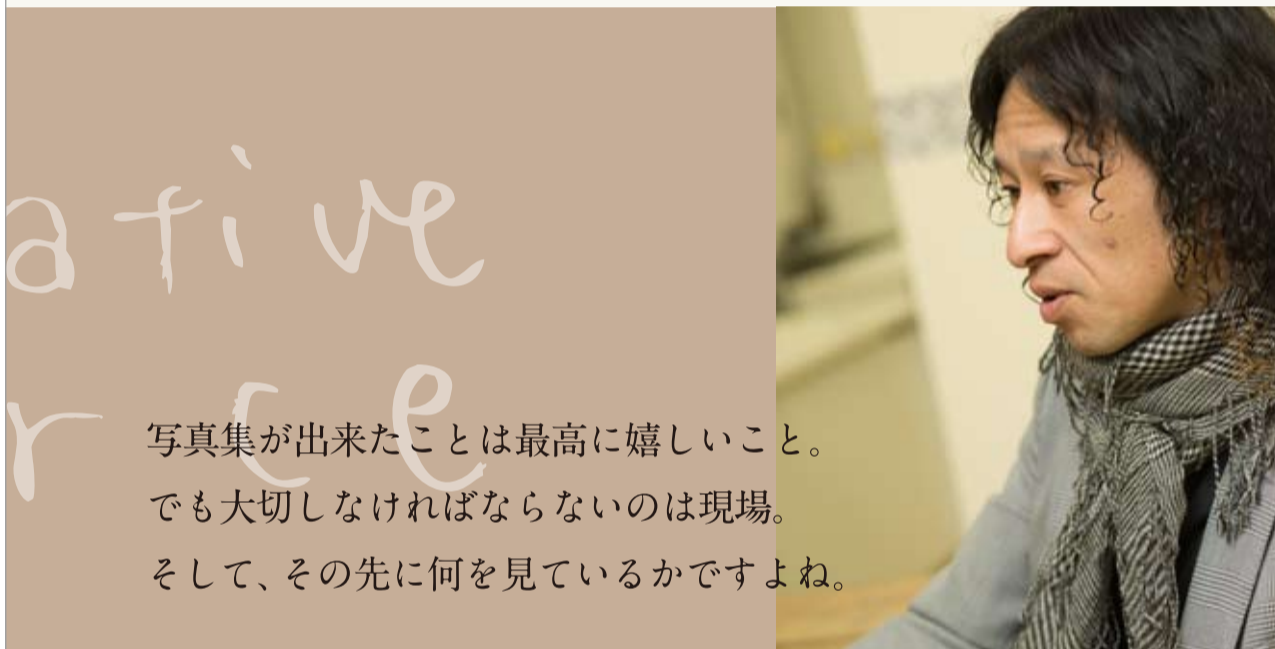
ただ障がいがあるとかないかそんなこと関係なく、互いに敬意や感謝の気持ちを持って、一人ひとりがごく自然に普通にありのままの自分で社会の中で存在出来ればいいなあと思います。障がいなんて言葉もいつかなくなればいいのって。あつ、やまなみのアーティストと笠谷さんの協働の発信は、そこにたどり着くための手段だと僕は思っています。

福祉に関心を持ってほしいという思いも、障がい者自身の幸せを願う思いも、向かう先は同じだと思うのですが、遠い先の理想のようですぐには叶わない。ただ、そのためにいま何をすべきかを考えると、福祉とは全く関係のない人が福祉と繋がるきっかけを作ることが大切だと思います。

笠谷 福祉施設の方と他業種の方が出会う場がもっと増えればいいのですが、そういうきっかけもなかなか無いんですよ。いかにその可能性を作るかというと、やはりプロモーションだと思うんです。「福祉施設のネタでこんなおもしろいことをやってるよ」ということを発信することで、PR-yみたいな活動が増えていけばいいと思うのですが、勝手に増えるのを待つのではなくて、真似する人が増えるぐらい面白いことをどんどん仕掛けていく必要があるなって思っています。

お二人の活動が次のアクションのきっかけになるといいですね。

笠谷 僕の場合、最初にきっかけを作ってくれたのは、ねむの木学園の絵画展に連れて行ってくれた父だったのかもしれませんが。何でもいから、自分の身の回りでそういったきっかけを作っていくことが大切ですよ。



写真集が出来たことは最高に嬉しいこと。
でも大切しなければならないのは現場。
そして、その先に何を見ているかですよ。

するかではありません。その人らしく生きられる環境とか人間関係とか、一人ひとりの生き様、そういった部分が笠谷さんや笠谷さんを通した社会にも伝わり、心揺さぶられるんだろうなと思います。

展覧会をして社会と繋がることや評価を受けることも大切です。様々な媒体を通じて彼らや彼らの作品の存在を知っていただくことも大切です。ただ僕たちはそうしたことを目的としている訳ではありません。僕たちが何より大切にしなければならないのは現場です。全て彼らであり彼らと過ごす日常の現場ですよ。

施設の色

写真集の撮影のために、笠谷さんやカメラマンの方が何度もやまなみ工房を訪ねられたと思います。笠谷さんたちとの交流の中で、利用者の方の変化というのはありましたか？

山下 もっと気をつかうかなって思ったんですけど、全く変わらなかったですね。笠谷さんの入り方だと思うのですが...笠谷さんもカメラマンのロブさんも利用者の方もみんな一緒に見えるんですよ。部屋に入ればもう同じアーティストとアーティストという感じで。障がい者と健常者ではなく、ごく自然に人と人としての

笠谷 施設というよりは、山下さんをはじめ職員さんがとにかく明るい人たちで、その印象が強いですね(笑)。

山下 みんな、やまなみとやまなみの人が好きなんですよ。だからいつも楽しいし、嬉しいし。そうした空気感や、やまなみのカラーを作り出すのも職員の個性や人間性。職員は僕にとってやまなみの誇りですね。やまなみを利用する人や、地域の人たちに対してもスタッフのカラーというか、人間性はとても重要です。僕は施設長としてとても恵まれています。

笠谷 そうですね、職員さんの色かもしれないですよ。施設の色って。アーティストさんはそれでもそれぞれが個性的ですから。

では、やまなみカラーは山下さんのカラーでもあったりするのでしょうか？

山下 それはないと思いますよ。僕なんて社会性や専門性においてもまだまだ課題があります。でも、こんな僕でも目の前の職員やアーティストから常に影響を受けています。彼らの苦手なことで僕が出来ることは社会の中でたくさんあるかもしれません。しかし支援する側される側の関係ではありません。人として大切にしなければならないことを彼らから学び、一人の人間として成長できる実感があります。僕たちやまなみカラーはアーティストの彼らの力ですよ。

Lineをこえる思考空間

ビッグ・アイ アートプロジェクト 入選作品展 共振×響心

今年で3年目を迎えるビッグ・アイアートプロジェクト入選作品展 共振×響心。

国内外から集まった940作品の中から厳選された50作品をご紹介します。

時には強く、時には優しく、不思議な力で観るものの心を揺さぶる作品たちをぜひお楽しみください。

Exhibition

T O K Y O

東京 Bunkamura Box Gallery
会期 2014年5月2日(金)～5月11日(日)
10:00～19:30 (最終日は17:00まで)

Y O K O H A M A

横浜 障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール
会期 2014年5月14日(水)～5月19日(月)
10:00～18:00 (5/17・18・19は17:00まで)

O S A K A

大阪 阪急うめだ本店 9階 アートステージ
会期 2014年8月27日(水)～9月2日(火)
10:00～20:00 (8/29・30は21:00、9/2は18:00まで)

Event

東京会場 Bunkamura Box Gallery

ギャラリートーク

「分野を超えたパートナーのつくり方 ～新たな可能性の開拓へ～」

特集記事にて取材させていただいた、山下さんと笠谷さんにご来場いただき、分野を超えた繋がりから生まれる新たな可能性について語っていただきます。

日時 2014年5月4日(日)14:00～16:00

出演 山下完和(やまなみ工房)・笠谷圭見(PR-y)

定員 30名程度 ▶参加無料 要申込(先着順)



デモンストレーション

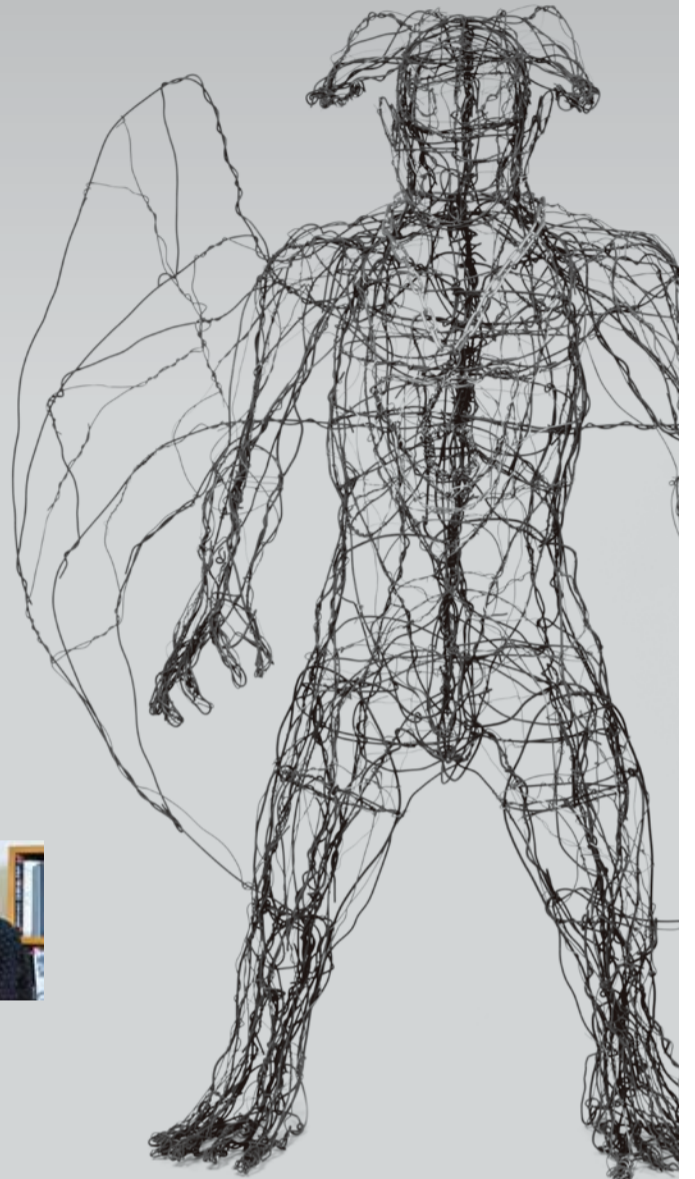
「三次元の思考」

秋元雄史賞を受賞した崔廣修(チェ・クァンス)さんによる制作実演を開催!

力強くも繊細な作品は、どのように作り出されているのか…!?

日時 2014年5月5日(月・祝)11:00～18:00

出演 崔廣修 ▶入場無料 申込不要



崔 廣修 「心優しい悪魔」

ギャラリートークのご観覧には事前の申込が必要となります。
詳しくはビッグ・アイ ホームページをご覧ください。右記までお問い合わせください。

問合せ ビッグ・アイ「アートプロジェクト」係

TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972

Eメール museum@big-i.jp ホームページ <http://big-i.jp/> **ビッグ・アイ** **検索**

Present!

プレゼントクイズ 今号の特集記事からの出題です

Q やまなみ工房の山下さんが何より大切にしなければならないと考えているものは何でしょうか?

日常の ヒント: 漢字2文字

写真集

『DISTORTION』を5名様にプレゼント!!

著者 笠谷圭見/ロブ・ワルバース
発行者 山下完和(やまなみ工房)



■応募方法

クイズの答えと下記の必要事項をご記入の上、ハガキ、ファックス、Eメールのいずれかでご応募ください。

①氏名(ふりがな) ②郵便番号 ③住所 ④電話番号 ⑤本紙へのご感想やご希望、ご質問など正解者の中から抽選で5名様に景品を発送させていただきます。当選者の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。

※読者のみなさまからいただいたご意見を「i-co」紙面でご紹介する場合があります。予めご了承ください。

■応募締切

2014年4月30日(水)消印有効

■応募先

〒590-0115
大阪府堺市南区茶山台1-8-1
ビッグ・アイ「i-coプレゼント」係
FAX 072-290-0972
Eメール i-co@big-i.jp

ご応募の際にお預かりする個人情報については、個人情報保護関係法令を遵守し、本紙の運営・実施の目的以外には使用いたしません。

Information

ビッグ・アイ ホテル宴会プランのご案内

歓送迎会や同窓会、祝賀会、各種団体の総会など、皆さまの大切な時を、心を込めたお料理でお手伝いいたします。



少人数のグループの集まりから、ブッフェ形式で数百人規模のパーティーまでお受けさせていただきます。

3つの特典

- ① お一人様 4,000円～(2時間・飲み放題)
- ② 室料とマイクなどの備品は無料(2時間まで)
- ③ 全館ご利用の場合は、エントランスホールでのパーティーも

ビッグ・アイでは多目的ホールを利用した1500人までの会合、講演会。また、研修室を利用し、最大6つに分かれての分科会もできます。



どなたにも安心・快適にご利用いただけるビッグ・アイ宿泊室もぜひご利用ください。
<http://www.big-i.jp/hotel/>

問合せ ビッグ・アイフロント
TEL072-290-0900 FAX072-290-0920
E-mail front@big-i.jp



編集・発行 国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)広報
〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1
TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972

発行日 2014年3月31日

平成26年度事業については、現在計画調整中のため、今号はイベントカレンダーの掲載をお休みさせていただきます。